

科目名	看護実践基盤学実習(基礎)1			ナンバリング	PEB124	授業形態	実習
対象学年	1 年	開講時期	後期集中	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	大堀 昇	担当教員	木部美知子、矢澤香代子、鈴木直子、鈴木祐子、木村奈緒、河田真理子、助手、他				

授業の概要	病院における看護を必要とする場面、対象、援助内容の実際を体験することにより、それらの各場面における看護の役割について、看護対象者の視点から学修することを目的とする。 実際の看護対象者とのコミュニケーションをとおして看護職に求められる倫理と態度、および看護活動を体験し、看護学を学ぶ者としての自覚と主体的な学修への動機づけを行うことを学修する。						
到達目標	1. 病院の機能・構造について理解できる。 2. 病院の主な部門と看護部との多職種連携の必要性について理解できる。 3. 病院における看護の役割と機能について理解できる。 4. 看護対象者の入院環境について理解できる。 5. 看護対象者とのコミュニケーションをとおして、看護職に求められる倫理と態度について考察できる。 6. 看護学生として責任ある行動をとり、自らの課題をもち実習に臨むことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	看護学生として求められる服装、態度、挨拶、言葉遣いなど日々鍛錬すること。看護学原論の講義内容を復習する。チーム医療のメンバーとしての看護倫理も復習する。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	○	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 病院の概要および地域医療における機能について説明できる。 2. 病院の主な部門の特徴と活動内容について説明できる。 3. 病院における看護師の活動について説明できる。 4. 患者の療養生活環境について説明できる。 5. 患者とのコミュニケーションをはかり、看護師の倫理的態度について述べることができる。 6. 看護学生としての責任を自覚し、主体的に学習できる。	1. 病院の設置主体や目的、特徴、地域医療における機能と役割について説明することができる。 2. 病院の主な部門の特徴と活動内容、および看護部との連携について説明できる。 3. 病院における看護師の役割と機能について具体的に説明できる。 4. 患者の人間関係を含む療養環境について説明できる。 5. 患者とのコミュニケーションから看護師の倫理的態度、患者の入院中の思いについて述べることができる。 6. 看護学生としての責任を自覚し、問題意識をもって学習できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		10%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		70%
課題レポート	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	①記録、カンファレンスの指導は毎日、担当教員が行う。 ②実習指導は担当教員と臨地実習指導者が協力してOJT方式で行う。 ③最終日、担当教員と学生個人面談を行い評価をフィードバックする。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	オリエンテーション、看護活動の見学1	実習施設のオリエンテーション、各部門の見学、病棟への挨拶、看護場面のシャドーイング、カンファレンス	病院 病棟
	第2回	看護活動の見学2	看護場面のシャドーイング、患者とのコミュニケーション、カンファレンス	病棟
	第3回	看護活動の見学3	看護場面のシャドーイング、患者とのコミュニケーション、カンファレンス	病棟
	第4回	看護活動の見学4、カンファレンス	看護場面のシャドーイング、患者とのコミュニケーション、カンファレンス	病棟
	第5回	実習の総括	学内 実習の評価、全体でのまとめ、課題の明確化	学内
	第6回			
	第7回			
	第8回			
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験			
授業の進め方		①指導は担当教員と臨地実習指導者が協力してOJT方式で行う。 ②毎日、必要であれば個別に指導を行う。		
授業外学習の指示		(授業外学習時間： 毎週 分)		

教科書	
参考書	
参考URLなど	実習で使用する記録用紙は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードできる。
その他	予習(教科書・資料・看護技術経験録)と復習(実習まとめ発表会)を行う。